



バスケットボールにおける流れとタイムアウトの関係性 : ボール保持時に着目して

上山, 咲

(Citation)

課題研究優秀ポスター, 2026:12

(Issue Date)

2026

(Resource Type)

conference poster

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100504991>



バスケットボールにおける流れとタイムアウトの関係性

－ ボール保持時に着目して －

4306 上山 咲

キーワード: 流れ, タイムアウト, バスケットボール

はじめに

背景: バスケットボールの試合の中で「流れ」というワードがよく出てくる
課題: 「流れ」とは？どのような影響？
タイムアウトとの関係性は？
目的: タイムアウトによる「流れ」への影響
どんな関係性があるか

言葉の定義

いくつかの先行研究を見た結果、

- ①「選手の感情」が「流れ」の直接的な発生要因となっており、「試合に関する事象」と「選手の価値観」の2つの要素とも互いに影響し合う、絡み合う構造
- ②「流れ」とはある程度試合が進行した後に、一方のチームに「流れ」があり、「流れ」のないチームが1点でも得点すると「流れ」が変わりやすい
- ③流れはない

選手の感情や価値観と試合状況が相互に作用して
一方のチームに勢いや優勢感が生まれ
それが短期間に変化する状態

※今回の研究では選手の感情、価値観について調べることができなかった

調査方法

バスケットボールの公式試合の映像を対象とする。神大附属vs布引中学校の試合である。
TO前後3分のボール保持時間を比較した。

「流れ」がきたとき

- ・自チームの保持時間が増加
- ・相手チームの保持時間が大幅に減少

➡ 2～3秒程度の差は誤差とみなし、10秒以上減少した場合を、「大幅な減少」とする。

結論

結果より、布引中学校では自チームがタイムアウトを取った直後に自チームのボール保持時間が大幅に増加していた。また、神大附属では自チームのボール保持時間に大きな変化は見られないものの、相手チームのボール保持時間を大幅に減少させた場面があった。

これらの結果からタイムアウトが試合の流れに影響するかどうかは相手チームのボール保持時間も考慮する必要があると分かった。以上よりタイムアウトの役割は「**自チームの流れを作る**」「**相手の流れを断ち切る**」の2つがあると分かった。

今後の展望

今回の研究ではタイムアウト前後のボール保持時間だけで「流れ」を調べたが、他にもタイムアウトの回数、試合状況の違い、タイムアウト中のコーチ等からの指示などに着目して「流れ」を調べたい。また、今回は「流れ」の定義であった「選手の感情」を考慮できていなかったため、選手の感情にも着目して調べてみたい。さらに、今回は対象をタイムアウト前後3分としたが、もっと時間を長くしたり短くしたりして比較も行うことで、流れがどの程度持続するかを調べたい。

調査結果

1試合を通してタイムアウトは計4回取られた。
2回目は布引中学校が、それ以外の3回は神大附属のタイムアウトである。
神大附属のボール保持時間の変化は表1のようになった。

表1

タイムアウト	前3分 保持時間	後3分 保持時間	変化量 (後-前)
1回目	53.3	27.1	-26.2
2回目	56.5	59.7	+3.2
3回目	42.8	33.1	-9.7
4回目	47.0	53.2	+6.2

また、布引中学校のボール保持時間は表2のようになった。

表2

タイムアウト	前3分 保持時間	後3分 保持時間	変化量 (後-前)
1回目	60.9	53.3	-7.6
2回目	62.2	83.9	+21.7
3回目	80.3	67.2	-13.1
4回目	62.8	42.2	-20.6

表1より、神大附属では自チームのボール保持時間が10秒以上増加する場面は見られなかった。
しかし、3・4回目のタイムアウト後、相手のボール保持時間をそれぞれ10秒・20秒以上減少させている。

また、表2より布引中学校では自チームが取った2回目のタイムアウト後にボール保持時間が20秒以上増加していた。

布引中学校のタイムアウトでは自チームのボール保持時間を増加させ、攻撃の勢いを強める効果が、神大附属では相手の攻撃時間を削ることで相対的に有利な状況を作り出す効果があるとわかった。